

人口減少・地域活性化対策特別委員会  
提 言 書

「中心商店街の活性化への提言」

令和5年10月10日

## 中心商店街の活性化への提言

人口減少・少子高齢化は市街地の有様に多くの問題を生じさせております。

また、車社会の進展、大規模集客施設の郊外立地等により、中心商店街は、居住人口が減少し、スポンジ化現象が進み、顧客・住民ニーズに十分対応できず、衰退が進みつつあります。

多様な都市機能がコンパクトに集積して、多くの人にとって暮らしやすい、歩いて暮らせる・にぎわいあふれるまちづくりを進めることが必要であり、中・長期にわたる計画が求められます。

そこで、市街地の背骨といわれる駅前から南銀座商店街に至る中心商店街の活性化は、活力ある市街地形成にとって重要な地域であると認識しております。これまで蓄積されている社会資本や産業資源等の既存ストックを有効に活用しつつ、地域の創意工夫・民間活力を活用しながら「医・食・住」を集約するため、誘導策が求められます。

本市は、SDGs 未来都市に認定され、地方再生コンパクトシティのモデル都市にも選定されております。中心商店街の活性化は、その主旨にも合致するものと考え、次のことを委員会として提言させていただきます。

## 1. 中心商店街の中・長期都市計画「トータルデザイン」を早急に示すこと

中心商店街全体を俯瞰した中・長期的なトータルデザインを作成し、商店街の活性化事業にある程度の指針を持たせることで、無秩序な開発が抑制され、活性化事業のまとまりが期待される。商店街を活性化させていく上で、この指針となるトータルデザインの作成は急務といえる。

また、トータルデザインの作成に当たっては、四半世紀（25年）程度のビジョンを持った計画策定が望ましいと考える。

## 2. トータルデザインに基づいた「居住誘導」を行うこと

公営住宅や民間の優良住宅の整備を図ること、税制の見直しなどの優遇措置を設けることによって、中心商店街に居住誘導を進めることができると考える。

居住誘導は、中心商店街の活性化のための最重要課題であり、具体的な施策が必要である。

## 3. 「要配慮者にやさしい生活環境」を整備すること

子どもから高齢者まで誰もが安心して歩いて暮らせるための整備が必要不可欠だと考える。

具体的には、医療分野を中心としたヘルスケア拠点の整備、無電柱化や駐車場整備、消雪対策の強化といった点が挙げられる。

## 4. 「市民参画」を活用したまちづくりを進めること

市民参画の手法の一つとして、リノベーションを活用したまちづくりがある。空き家対策のみならず、住民主体のまちづくりが可能となり、住民間のネットワークコミュニティの醸成に寄与すると考える。

本市では、過去にリノベーションスクールを実施しているが、当時とは環境が大きく変わっており、推奨地域を設定するといった具体性を市民に

示すことも有効であると考える。

また、市民の自主的な活動の拠点となる市民活動支援センターの設置が望まれる。

#### 5. 「食文化都市としての観光拠点」を確保すること

鶴岡らしい食の提供の弱さが本市の食文化都市としての課題であるが、中心商店街の活性化と併せて施策化することで、効率よく課題解決を果たすことができると考える。

中心商店街に食文化拠点施設を設置すること、また、内川沿いを再構築することで、観光等による人の流れを作り、活性化を促進させることができると考えている。

本市の景観シンボルの1つともいえる内川沿いは、他市に誇れる街並みであり、活性化には欠かせない重要な市街地区域であるため、環境保全の強化が必要である。

## 調査の経過（概要）

本市における過疎対策を含めた人口減少問題全般について、実態及び対策を調査・研究し、対策強化に努めるため、平成27年3月に人口減少・地域活性化対策特別委員会が設置されました。その後、引き続き調査が必要なことから、平成29年12月定例会において第二次人口減少・地域活性化対策特別委員会が、令和3年12月定例会において第三次人口減少・地域活性化対策特別委員会が設置されました。

人口減少対策及び地域活性化を図るには、出産・子育て支援並びに雇用対策、移住・定住対策などの重層的で広範な施策が必要とされますが、第二次人口減少・地域活性化対策特別委員会においては、今後の様々な課題の解決に向けて「生産年齢人口減少をどう食い止めるか」をテーマに掲げ、その解決策を報告書として取りまとめ、令和元年9月に市長に提言を行うなど、調査・研究に取り組んできました。

これまで人口減少対策に重点を置き、取り組んできた経過を踏まえ、第三次人口減少・地域活性化対策特別委員会においては、人口減少・地域活性化対策のうち、地域活性化対策に重点的に取り組む方針を決め、近年、にぎわいが失われつつある中心市街地の商店街の活性化に焦点をあて、調査を進めることにしました。

商店街の関係者を招いて懇談会を実施し、実態や諸課題の把握に努めるとともに、市当局から中心市街地活性化の取組についての説明を受け、今後の展望等の意見交換をすることで、実効性のある対策についての検討を進めてきました。

## 調査活動等の経過

名 称	日 程	内 容
第1回委員会	令和3年12月16日	・正副委員長の互選
第2回委員会	令和4年 1月 7日	・第2期鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の事業効果検証について
第3回委員会	令和4年 3月 2日	・閉会中の継続調査について
懇談会	令和4年 4月20日	・銀座商店街の現状と課題について (鶴岡銀座商店街振興組合との意見交換)
第4回委員会	令和4年 6月22日	・中心市街地の在るべき姿に向けた長期的な展望について
第5回委員会	令和4年 9月21日	・第2期鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の事業効果検証について
第6回委員会	令和5年 3月20日	・リノベーションを活用したまちづくりについて ・閉会中の継続調査について
第7回委員会	令和5年 6月30日	・提言書の作成について
第8回委員会	令和5年 8月30日	・提言書の作成について
第9回委員会	令和5年 9月20日	・第2期鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の事業効果検証について ・提言書の作成について

## 人口減少・地域活性化対策特別委員会 委員名簿

委員長 富 樫 正 毅

副委員長 坂 本 昌 栄

委員 工 藤 博

委員 佐 藤 麻 里

委員 阿 部 寛

委員 本 間 正 芳

委員 本 間 信 一